

第4学年2組 総合的な学習の時間指導案

日 時 7月2日（水）13:25～14:10
場 所 4年2組教室
授業者 板倉 あかね

1 単元名 つないでいきたい！わたしたちの五十辺太鼓

2 単元の目標

五十辺太鼓をはじめとする五十辺地区の伝統や文化の継承に尽力する方々とかかわる活動を通して、自分が住む地域で受け継がれてきた伝統や文化のよさに気付き、その人たちの技術や思いの継承を願って自分にできることを考え、学んだことを自分の生活に生かそうとすることができるようになる。

3 指導にあたって

（1）児童について

3年生では、心のユニバーサルデザインについて関心をもち、身の回りの優しさや思いやりについて学習を進めてきた。この学習の中で、問い合わせをもつ、調査する、情報を整理・分析する、まとめて表現する等の探究的な学び方を身に付いてきた。調査する際には「大作戦をレベルアップするひみつを、インタビューしてみよう」「社会で学習したスーパー・マーケットの工夫にも優しさがあるんじゃないかな」と、直接見聞きしたり、これまでの学習と関連付けて考えたりするよさを感じながら学習してきた。子どもたちは、これまで見逃していた身の回りの人・もの・ことの優しさに気付き、周りの人のことを思って行動する大切さを考えることができた。一方で、対象にじっくりと繰り返しかかわるよさを感じる経験をしていない。4年生では、自分たちの身近な地域の伝統や文化をテーマにすることで、これまでに身に付けてきた学び方を生かしながら、対象に繰り返しかかわるよさを感じ、地域への愛着を高めることができるようになっていきたい。

（2）教材について

三小の北側に広がる五十辺地区には、信夫山の麓にある瀧同神社の祭り太鼓として100年以上前から伝承される、五十辺太鼓という伝統的な文化がある。昔は大人が叩いていたが、今では子ども太鼓教室を毎週行い、子どもたちにも教えている。太鼓教室では多くの大人たちがかかわっている。人から人へと受け継がれる地域の伝統や文化を扱うことで、「自分たちが受け継がなきゃ」「後の世代へ受け継ぎたい」と熱い思いをもっている人たちと繰り返しかかわりながらよさや魅力に気付き、地域への愛着を高めることができると考える。また、「五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを後の世代へ受け継ぎたい」という願いと「担い手不足」という問題点との間で、子どもたちは自分たちにできることや持続可能な方法について考えを深める姿が期待できる。

（3）指導について

第1小単元では、五十辺太鼓にとことん親しむ時間を設定することで、五十辺太鼓を支える人たちに繰り返しかかわりながら、みんなで演奏する楽しさを感じ、子どもたちが五十辺太鼓の魅力に浸ることができるようにする。五十辺太鼓の歴史や瀧洞神社のお祭りについて関心をもった子どもたちは、本やインターネットを使って調べるが、欲しい情報を集めることができなかった。「五十辺太鼓を教えている人たちに直接話を聞きたい」という思いをもち、講師招聘授業として五十辺太鼓保存会の方に、歴史や現在の活動について話を聞いた。子どもたちは、「わたしも叩いてみたい」「もっと知りたい」という思いをもち、五十辺集会所にて実際に体験をしてきた。また、教室や音楽室でも、太鼓を習っている友達から教えてもらいながらリズムを覚えようとする姿も見られる。これまでの学習を通して、五十辺太鼓のよさを感じ、さらに親しもうと思いを高めてきている。本時では、五十辺太鼓保存会の方の話を聞き、「五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを後の世代へ受け継いでいきたい」という願いと、「担い手不足」という問題に出会わせる。そうすることで、子どもたちは「自分たちにできることは何か」と本気で動き出すと考える。

第2小単元では、五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを自分たちが受け継ぐためにできることを実践していく。五十辺太鼓保存会や五十辺商工会と連携し、地域の人に向けて子どもたちが太鼓演奏を披露する場を設定することで、「五十辺太鼓を支える人たちの思いに応えて、みんなで演奏できた」

という課題解決に対する達成感や成就感を味わうことができるようになる。

第3小単元では、これからも五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを受け継ぐためにできることを考え、地域の人や下学年の子に対しての発信活動をする。発信する内容や方法について、これまでの自分たちの調査活動や体験で発見した五十辺地区の伝統や文化の魅力を振り返り、地域の人に伝えたいことは何か、下学年にも伝えたいことが伝わるものになっているのか、五十辺太鼓保存会の方や、五十辺地区活性化への取組を行っている桜の聖母短期大学の学生にアドバイスをいただきながら吟味することができるようにしたい。そのような活動を通して、地域の伝統や文化を守り受け継ぐことについて、その子らしい解をもちながら、大切にしていこうと思いを高める姿につなげていきたい。

4 単元の計画（総時数70時間）

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域の伝統や文化の現状や特徴について、これまでの経験や既存の知識と関連付けながら理解している。</p> <p>② 五十辺地区の伝統や文化に関する調査活動において、これまでの経験や既得の知識及び技能を活用し、目的や対象に応じて適切に実施している。</p> <p>③ 五十辺地区の伝統や文化にかかわる人の思いや願い、それを実現しようとする行動の価値の理解、学校や地域への愛着の高まりは、探究的に学んだことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① 地域の伝統や文化の現状や特徴について、自ら問い合わせだし、解決方法や手段など見通しをもっている。</p> <p>② 五十辺地区の伝統や文化について必要な情報を収集する手段を選択し、整理して蓄積している。</p> <p>③ 五十辺地区の伝統や文化の継承について友達と共に考え、共通点や差異点を見いだしたり、他の事柄と関連付けたりしながらその子らしい解を創っている。</p> <p>④ 五十辺地区の伝統や文化の継承と自分たちの生活とのかかわりについて、創り上げた自分らしい考え方を相手や目的に応じて表現している。</p>	<p>① 地域の伝統や文化の現状や特徴について、自ら見いだした問い合わせを粘り強く追究し、自らの学びを振り返り、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 五十辺地区の伝統や文化の継承に向けた探究活動を通して、多様性を認めながら自他への気付きを深め、共に学ぼうとしている。</p> <p>③ 五十辺地区の伝統や文化の継承と自分たちの生活とのかかわりについて考えたことを基に、自分にできることに取り組もうとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画

小単元	学習活動（時間）	知	思	態
五十辺太鼓に親しもう (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りについて調べる。 (4) ・五十辺太鼓について調べる。 (4) ・集めた情報について話し合う。 (2) ・五十辺太鼓を体験する。 (3) ・体験で感じたことを話し合う。 (2) ・五十辺太鼓についてさらに調べたり、体験したりする。 (3) ・五十辺太鼓や瀧洞神社の祭りの現状やかかわる人たちの思いから、学習課題を設定する (2) (本時1/2) 		<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>①</p> <p>③</p>	<p>①</p>
つなごう！ 五十辺太鼓 (24)	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちにできることを話し合い、「つなごう！五十辺太鼓大作戦」の計画を立てる。 (6) ・「つなごう！五十辺太鼓大作戦」の準備をする。 (10) ・地域の人に向けて、五十辺太鼓を演奏する。 (4) ・演奏して感じたことや考えたことを話し合い、活動を振り返る。 (4) 		<p>②</p> <p>③</p> <p>②</p> <p>④</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>

もっとつなご う！五十辺太鼓 (26)	・五十辺太鼓を受け継いでいくためにできることを話し合い、「もつ とつなごう！五十辺太鼓大作戦」の計画を立てる。 (4)		①	①
	・五十辺太鼓や瀧洞神社について発信する準備をする。 (8)		②	②
	・伝える内容や伝える方法を考え直す。 (6)		③	③
	・地域の人に向けて、五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りの魅力を発信 する。 (4)		④	③
	・これまでの活動を振り返り、自己の成長や変容、これから生き 方について考えたことを話し合う。 (4)		③	

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

これまでの五十辺太鼓に親しんだ経験を想起するとともに、五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを支える方の継承への願いを知ることを通して、その願いを実現するために自分たちにできることを考えることができる。

(2) 本時の終末に予想される子どものつぶやきと本時の手立て

「坂下さんたちの思いにこたえたい！」「自分たちにできることを考えていきたい！」

地域人材との協働的連携

五十辺太鼓に親しんだこれまでの経験に対する感想を伝え合った後、五十辺太鼓保存会の坂下さんを呼び、継承への願いと現状を語っていただく。坂下さんにはこれまで、講師招聘授業や太鼓体験の際にお世話になり、子どもたちは親しみを感じている。そんな坂下さんの願いを目の当たりにすることで、子どもたちが自分から動き出そうとする思いを引き出すことができるようになる。

子どもの内面の可視化

個人で考え、付箋に書き出すことにより、全員が自分の考えを表出できるようにする。考えを伝え合う際には付箋を模造紙に貼っていくことで、共通点や相違点に着目しながら考えを整理することができるようになる。また、本時で出た考えを、次時では「自分たちでできそう」「他の人の力を借りてできそう」、「すぐにできる」「準備に時間がかかる」という座標軸に位置付けていくことで、今後の学習を思い描きながら見通しをもって話し合うことができるようになる。

(3) 指導過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
1 これまでの学習を振り返る。 ○ 太鼓体験楽しかった。もっとたたいて上手になりたい。 ○ 坂下さんたちのおかげで、体験したり歴史を知ったりできた。	3 (一斉)	○ 五十辺太鼓について調べたり体験したりした子どもたちの感想を意図的に紹介することで、その時の感動や楽しさ等を想起できるようにする。
2 五十辺太鼓保存会の坂下さんの話を聞いて感じたことを出し合い、本時のめあてをつかむ。 ○ 坂下さんたちの思いにこたえたい！ ○ 太鼓や祭りがなくならないようにできることをみんなで考えようよ。 ○ 自分たちにもできることはあるかな。	10 (一斉)	◆ 五十辺太鼓保存会の坂下さんを呼び、継承への願いと現状を語っていただく。これまでお世話になった坂下さんの願いを目の当たりにすることで、子どもたちが自分から動き出そうとする思いを引き出すことができるようになる。 ○ 坂下さんの願いを聞き、五十辺太鼓や瀧洞神社のお祭りを残していくためにできることをつぶやく子どもの考えを取り上げて全体に広めることで、本時のめあてを共有することができるようになる。
3 個人で考える。 ○ 五十辺太鼓や瀧洞神社のことをみんなに伝える。 ○ 歴史や魅力をポスターや新聞にする。 ○ 伝えるためにもっと瀧洞神社のことも調べないと。 ○ 自分たちが太鼓を叩く姿を地域の人	15 (個人)	◆ まずは個人で考え、付箋に書き出すことにより、全員が自分の考えを表出できるようになる。また、全体共有の際に、共通点や相違点に着目して整理しながら話し合うことができるようになる。 ○ 「伝える」「広める」という意見に対しては、「だれに」「何を」「どんな方法で」と問いか

自分たちにできることは…？

<p>に見てもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年下の子に太鼓を教えてあげる。 ○ 每年お祭りに参加する。 <p>4 全体で考えを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人に五十辺太鼓や瀧洞神社のことをもっと知ってもらいたい。 ○ やりたくなる人をふやしたいから、演奏を見たり体験したりすればいいんじゃないかな。 ○ たくさんの人広めたい。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 坂下さんたちの思いにこたえたいから、自分たちにできることを次も考えていきたい。 ○ 五十辺太鼓やお祭りがずっと残るよう、4-2のみんなで○○ならできそ 	12 (一斉)	<p>ることで、より具体的に考えことができるようにする。</p> <p>◆ 子どもから出た考えを伝え合う際には、付箋を移動し、似た考えをグルーピングしながら、共通点や相違点に着目して考えを整理することができるようとする。</p> <p>※ 五十辺太鼓を支える方たちの願いを実現するために自分たちにできることを考えことができている。(発言・行動・記述内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と共に学ぶよさや今後の学習への見通しについて記述した子どもを意図的に指名して発表させ価値付けることで、今後の学習の姿に生かすことができるようとする。 ○ 坂下さんに子どもたちの考えに対する感想を伝えていただくことで、次時への意欲を高めることができるようとする。
--	------------	---

(4) 板書計画

